



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

第74回コロイドおよび 界面化学討論会へのお誘い

はじめに

第74回コロイドおよび界面化学討論会は、9月12日(火)～15日(金)の日程で、長野県長野市にあります信州大学長野(工学)キャンパスにて開催の予定です。昨年と同様にオンサイト・オンラインのハイブリッド開催を予定しています。

長野県でのコロイドおよび界面化学討論会の開催は信州大学上田キャンパスでの第14回(1961年)、信州大学松本キャンパスでの第29回(1976年)、第60回(2007年)に続き4回目で、信州大学長野(工学)キャンパスでの開催は今回初めてとなります。長野県は山と川により町が隔てられていることから、各地域の文化が異なります。町の成り立ちも異なり、松本市は松本城の城下町、上田市は養蚕の町、長野市は善光寺の門前町となります。また、長野市は武田信玄と上杉謙信が合戦した川中島の戦いの場でもあります。

主題:「コロイド・界面化学がつなぐ時間と空間」

コロイド・界面化学は性質や状態の異なる物質が共存した際に生まれる境界面やその共存状態を取り扱う学術領域です。コロイド・界面化学は1つの学術領域にとどまらず、自然科学の諸分野に跨る学際性を有していることから、分野や人をつなぐ役割を担っています。新型コロナウイルス感染症の拡大により時間と空間が断絶されました。生活様式も化学の世界も大きく変化しました。人が直接出会うこともできず、学会もオンラインとなりました。そこで本討論会では、世代や

立場などに関係なく、人が出会う喜び、人が創り出す力をコロイド・界面化学を通して再認識し、社会のさらなる発展を期待して「コロイド・界面化学がつなぐ時間と空間」を主題として実施いたします。

討論会の概要

一般研究発表は、昨年度から、1. 界面活性剤と両親媒性物質、2. 分子膜、3. ソフトマターとバイオシステム、4. 微粒子・ナノ粒子・ナノマテリアル、5. 分散・凝集、6. 固体表面と濡れ・吸着・接着の6つのセッションに分類されています。一般シンポジウムは、討論会テーマを冠した「コロイド・界面化学がつなぐ時間と空間」、「界面ナノフォトニクス～固液界面での光と物質の相互作用とダイナミクス～」、「次世代マテリアルへの挑戦:最新コロイド技術による材料設計とプロセス最適化」、「水が関わる *in situ* ナノ構造変化分析」および「有機フッ素化合物の関わる界面化学の新展開」を実施する予定です。また、本年度は討論会の日程を1日延長して4日目の9月15日(金)に国際シンポジウムを善光寺 大勧進 紫雲閣にて開催する予定です。

科学奨励賞を受賞された慶應義塾大学理工学部 伴野太祐氏および京都大学化学研究所 猿山雅亮氏による講演も行われます。

例年どおり、若手研究者の発表には、ポスター賞、若手口頭講演賞が設けられます。多数の応募をお待ちしております。2日目の9月13日(水)の午後にホテルメトロポリタン長野にて信州大学先鋭材料研究所特別特任教授 金子克美氏に

よる総合講演およびスピードスケートオリンピック金メダリスト 小平奈緒氏(社会医療法人財団慈泉会 相澤病院、信州大学 特任教授)による特別講演を予定しています。また、Lectureship Awardを受賞された University of Newcastle 教授 Erica Wanless 氏(オーストラリア)および Lund University 教授 Tommy Nylander 氏(スウェーデン)による講演も予定しております。

さらに、例年行われております「未来のコロイドおよび界面化学を創る若手討論会」が9月11日(月)に善光寺 大勧進 紫雲閣にて実施される予定です。学生会員など若い世代が将来を考える「キャリア探セッション」は9月12日(火)に実施される予定です。

おわりに

口頭発表申込および要旨原稿締め切りは6月2日、ポスター発表申込および要旨原稿締め切りは6月23日です。広告・展示・ランチョンセミナーの出展企業も募集中です。部会員以外の方でも日本化学会の会員または協賛、後援学協会の会員の方は発表することができます。ぜひ研究発表をご検討いただければ幸いです。なお、新型コロナウイルス感染症の流行状況により開催形態を変更することがございます。詳細は、部会ニュースレター会告やホームページをご確認下さい。

https://colloid.csj.jp/202303/74th_meeting_1st/

〔第74回実行委員長
酒井俊郎(信州大学工学部)、
討論会委員長 飯山 拓(信州大学理学部)〕

© 2023 The Chemical Society of Japan